

シリコンバレーに行く

武田 亘明

5月9日から16日までシリコンバレーの中心地、サンノゼで開催されたアップル社デベロッパーズコンファレンスに参加してきました。アップルコンピュータ用アプリケーションの開発者向け



WWDC会場前。ジョブズいるかな。

の会議で、これからのアップルはOS-Xを中心にどのような方向に向かって行くのか、多に興味のある内容でした。

しかし、開発者むけということもあり内容は難解至極。素人ユーザとしては、現地で会うことができたピー・ユー・ジー田崎氏の解説を受けつつ、なんとか参加しているという有り様でした。QuickTime4.0、Sherlock II、Net Boot Server、Cocoaなどこれから実現する多くのアプリケーションや環境について知ることができました。これらは、子どもたちがネットワークの世界を通じての自由なコミュニケーションと探索の実現を可能にするのです。

サンノゼ市のテックミュージアムや発明博物館なども視察しました。シリコンやハイテクに関するこの展示は特に優れ、きめ



こども発明博物館の内部。

細かい子ども向け体験コーナーやサポートスタッフの充実ぶりに驚かされました。また、玉川学園の富永先生ほか4名とも同行させていただき、玉川の姉妹校ハーカースクールの視察に参加しました。

アート作品が廊下に並び当校では、黒板と本、パソコンが教室に違和感なく溶け込み、主役の子どもから自然に活用されていることに驚かされましたし、学校システムを支えるスタッフが5人もいるという体制とその意義についての認識さの高さに驚くばかりです。学校現場での情報の活用は既に始まり、その安定期に入っているのです。

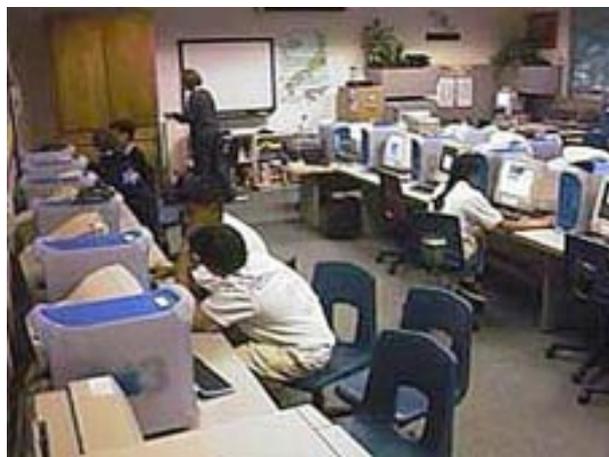
最後に、アメリカの大自然に触れるべく、ヨセミテ国立公園に向かいました。そこには、太古の時代から悠々として存在するどっしりと構えた大なる世界が広がっていました。1200メートルもある溶岩の断崖。横に1200メートルを見たことはあるけれど、それを縦にしてみたのは初めてでした。800メートル・200メートル・300メートルと重なる3段の滝。300メートルの滝とは100階建てのビルのようなものではないか!?!。距離やサイズの感覚がおかしくなってきたような...

シリコンと子どもと科学と自然。これらの調和をとりつつ、常に新しいチャレンジを続けているアメリカ。高所の判断と責任をとるリーダーの存在。これが日本との一番の違いかもしれない。

報告 WEB : <http://onko.ncf.or.jp/sanjose/>

ハーカースクール訪問報告

proj.1999.5.14ytazaki



青白のG3が並ぶ教室。授業中です。

1. 日時
1999年5月13日(木) 午前10時 午後3時
2. 場所
San Jose
3. 参加
富永教諭、溝口教諭(玉川学園中等部 CHat Netセンター) 多賀研究員、工藤研究員(全人教育研究所 CHaT Netセンター) 武田助教授(北星学園女子短期大学) 田崎(BUG)
4. 目的
米私立学校のコンピュータ利用の現状の視察
5. 結論
ハーカースクールは、シリコンバレーで勤務する両親を背景に、優れたシステムとともに技術者を含む十分なサポート体制を整備

し、生徒への技術の開示時期を慎重に選びながら積極的に教育にコンピュータを利用している。

6. 主な内容

6.1 概要

ハーカースクールは、1893年にPaloAltoで設立された私立学校であり、小中高の3拠点で1145名の生徒に一環した教育を行っている。



廊下は生徒たちのアート作品でいっぱい

いる。通常、米の小学校は半日で学業中心のカリキュラムが組まれているが、ハーカースクールは8:30-15:30 11periodの全日制で社会性も含めた教育を基本としている。放課後も5:30までコンピュータ、水泳、日本語を含むクラブ活動が組まれており、生徒の85%が自主的に参加している。シリコンバレーという土地柄から親の職業はコンピュータ関連が多く、授業にも積極的にコンピュータを利用している。中学部等の中途入学者にはExtra Programや SummerSchoolでフォローしている。また海外からの留学も多く、生徒の80名は寄宿しており、うち55名はESL (English as foreign Language) クラスで、朝昼夕食も学内でとっている。

6.2 コンピュータ教育

コンピュータは6年前から導入し、中学部までは使い勝手のよさからMacintosh、高校からはWindowsを使用している。中学部にはPowerComputing, iMac, PowerMacG3をそれぞれ24台備えている教室が4つあり、生徒と授業ごとにAppleShareサーバのフォルダが用意されている。授業は小学生から週1回必修であり、9年次からは3コースに分かれて、そのうち1コースは毎日コンピュータの授業がある。小学生はマウスでの操作を基本とし、3年次から



図書館ではインターネットによる図書・雑誌検索の環境も。

タイピングを教えている。生徒全員の家庭にはコンピュータがあり、家でインターネットを利用しているが、悪い情報もあるため、6年次で初めて授業で使用し、8年次からはHTMLも教えている。

去年からストリーミングを使って外国語の授業を流し、ESLの生徒が家で復習できるようにしている。教師全員がホームページを持ち、授業や宿題に必要な情報のリンクを用意している。個人のアカウントも全員が持っているが、6年次から主に玉川学園との交流のために使用させている。両親、生徒、教師は電子メールでコミュニケーションをとり、教師は週1時間、オンラインで生徒の質問に答えている。教師間のコミュニケーションもE-Mailが使われ、生徒の評価からランチの予約まですべてコンピュータを利用しなければならず、デジタルカメラ、Webのレイアウト、スキャニングなどのトレーニングをしている。学内200台程度のコンピュータ、サーバ、ネットワークの管理は専属で3名のコンピュータエンジニアと5名のセクレタリが担当している。

6.3 図書館

雑誌の購読を止め、かわりに主要な国際的新聞など数千の記事や百科事典から検索が可能なプロクエスト (<http://www.umi.com/proquest>) と契約し、BMPC6台から検索可能となっている。プロクエストは、キーワード検索、掲載雑誌、トピックから記事を検索し、要旨/全文/写真の有無とタイトルをリスト表示する記事検索システムで、年間7000ドル程度の費用がかかるが、雑誌の購読料、保管場所、管理費用を考えると非常に安い。

6.4 授業

4年次からCreativeWriter, ArtDoublorを使った簡単なDTPを始め、5,6年次からHyperStudioProを使い、ハイパーリンクを含む簡単なゲームを作っている。7年次からはPowerPointを使い、ゲームや仮想企業のアニュアルレポートの作成などを行う生徒もいる。ESLでは、Inspirationを使い、まず作家スタインベックについてロジカルに予習してから、実際日本を読んだり、博物館などへ行ってみるという授業を2,3週間かけて取り組んでいる。他には、MSOffice, Encalta, WritingMachine, KidsTyping, All the Right Typeなどのアプリケーションを使用している。

POEM'99 in Tokyo

今回のレターにチラシも同梱されているはずですが、いよいよPOEM'99が迫ってきました。北海道支部では例年の通り、一大ツアーをたててみんなで参加する予定です。今年の夏も、あついですよ。

テーマ:beyond classroom 「教室が世界」から「世界が教室」へ

私たちは、子どもたちが豊かな心を持った大人になってほしいと願っています。

21世紀までもうあとわずか。新指導要領が発表され、日本の学校での教育が新しい方向へと向かっていこうとしています。「総合的な学習の時間」にあらわれているように、個々の知識を吸収するのではなく、問題解決のために、子どもたちはいろいろな力を活かし、他人と協力して学ぶ活動が求められています。1991年に神戸ではじまったPOEMが、9回目の今年ではじめて関東で開催されます。今年、「環境」「国際理解」「福祉・健康」「情報」の4つを柱に、子どもたちを中心にしたコンピュータやネットワークを使った教育を、POEMに集った発表者も来場者もいっしょになって考える会にしたいと企画しています。

今年のテーマは、「beyond classroom」。子どもたちの学びが教室から飛び出して、世界中が自分たちが学ぶ場になり、地球市民とし

て21世紀にはばたいてほしいと願い、町田市の玉川大学を会場に開催いたします。

主催 ACE・教育とコンピュータ利用研究会
共催 JAPET・社団法人日本教育工学振興会
後援 文部省、東京都教育委員会、町田市教育委員会、玉川学園
協力 MES・障害者とコンピュータ利用研究会、KIDLINK
協賛 アップルコンピュータ株式会社、株式会社内田洋行、島津理化器械株式会社、日本教育新聞社、ヤノ電器株式会社、他
開催期日 1999年8月6日(金)・7日(土)
開催地 玉川学園(東京都町田市)

<http://www.tamagawa.ac.jp/>

対象者 学校関係者および教育とコンピュータ利用に関心を持つ人

プログラム

- 1 キッズパワープレゼンテーション&コーディネーター集合 他
＜ステージ会場では、こどもたちや先生方による実践事例の発表や提案を行います。＞
- 2 環境の部屋 & 未来の教室
＜教室会場では、環境、国際理解、情報について考え、情報交換する場を作ります。＞
- 3 インターネット探偵団・探検隊 & こどものじんち
＜こどもたちと一緒に参加してみてください。＞
- 4 エディースの森
＜ブースでは、MESやKIDLINKなど研究団体や企業からの提案や相談を行います。＞
- 5 POEM祭り
＜POEMは年に1度、全国から仲間が集う祭りです。楽しい企画を考え中です。＞

基調講演 「新指導要領と情報教育(仮)」山極 隆先生
(富山大学教育学部・教授、元文部省初等中等局主任視学官)



去年のポエム。熊本は楽しかったっすね。

総合的な学習と時間のねらいと情報教育の考え方について、山極先生による基調講演を予定しています。その他、8/7日にも、もう1つのカギとなる講演を予定しています。

参加・発表 教育とコンピュータ利用研究会 / ACE (The Association of Computer & Education) <http://www.ace.or.jp>
申し込み先 関東支部 西澤 廣人 hiroto@cb3.so-net.ne.jp

6月研究会のお知らせ

事務局 青柳

6月の北海道支部研究会を、以下の予定で行います。今回は教育大岩見沢校を会場にお借りします。宮下先生ありがとうございます。関東支部から再び玉川学園の清水先生が、またアップルの三木課長ほかの方もお見えになる予定ですので、この機会に交流を深めましょう。

また、終了後は懇親会を予定していますが、さらにその後岩見沢市の施設「メープルロッジ」に宿泊することにしました。予約の関係上、宿泊まで希望の方は予めお知らせください。料金は1泊朝食付きで6～7000円の見込みです。

#これは温泉も付いていて、なかなかいい施設の様ですよ。

<http://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/kanko.html>

6月教育研究会

日時：6月26日(土曜日) 14時～17時

会場：北海道教育大学岩見沢校
デジタルプレゼンテーションのできる講義室

http://m.iwa.hokkyodai.ac.jp/ihue/multimedia_presen/

と、この3月に導入された「双方向遠隔授業室」

<http://m.iwa.hokkyodai.ac.jp/ihue/re/facility/1999-03/>
を使わせていただきます。

内容(予定):

テーマ「サイバースペース・エデュケーション」

1. 「NetBootServerについて」(アップル・三木さん)

2. 「サイバー UNIV.」(岩教大・宮下先生)

3. 「カナダログハウスとイメージサーバ」(玉川学園・清水先生)

4. 「地域情報化とPTA活動」(北星短大・武田先生)

5. 「バーチャル雪まつり」の世界
なんか、こういうのだそうです。 などなど
すごいですね。



なんか、こういうのだそうです。 などなど
すごいですね。

終了後、18時頃から市内で懇親会、その後21時くらいに「メープルロッジ」に移動して2次会の予定です。ふるってご参加ください。

申し込み：支部事務局 青柳(北海道新聞社情報開発本部)
011-210-5506、aoyagi@hokkaido-np.co.jp

第6回マルチメディア・バトル、 いよいよ開催！

事務局 吉田

ACE北海道、久々開催の「マルチメディアバトル」の開催内容が具体的になってきましたので、お知らせいたします。会場はそごうの9F、『北海道テレコムフェア'99』の最終日のイベントです。会場には道新をはじめとする道内外のマルチメディア関連企業のブースが展開されています。こちらのほうもぜひ併せてご覧下さい。多数のご来場、お待ちしております。

主催 教育とコンピュータ利用研究会北海道支部
とき 1999年6月11日(金) 14時～15時30分

ところ 札幌市中央区北5条西2丁目

札幌そごうデパート9F 大催事場

北海道テレコムフェア'99会場内メインステージ

*テレコムフェアの開催概要については

<http://www.telecom.co.jp/fair99/>

発表内容(順不同・各校15分程度)

1. 札幌清田中 マルチメディア部(尾崎先生、黒田先生)
「歌って踊れる”マルチメディア部の設立～インターネットの接続まで」
「マルチメディア部のWeb作成!!そして愛 涙と感動の物語」
2. 札幌ソフトウェア専門学校(見澤先生)
「音と画像のクロスオーバーするマルチメディアタイトル」
by 軽音部とデジタルコンテンツサークル
3. 道都短大(野口先生)
「アウトドアで星座探検」(仮)
コンピュータを使った星座ナビゲータの紹介。キャンプなど屋外での星座観察に役立つマルチメディアツールとして、主に小中学生の利用を想定している
4. 札幌福井野中(まさし先生)
「三岸好太郎美術館の紹介」
「バーチャル動物園」
5. アトリエアイリス(水越先生)
バーチャルプレゼンテーション(自分たちの作った作品をいろいろな場面で インスタレーションする)
(以上、5校7チーム)
審査員を2、3名予定しています。発表～審査員のコメントを各校繰り返し、最終審査で最優秀校などの賞を決め、賞品の授与があります。
なお、発表校の皆様方はレジュメと当日発表データ形式等のご連絡お待ちしておりますので、よろしく申し上げます。

編集後記

みなさん、東京では公衆電話でIrDA通信するのが流行ってますよ(うそ)。というわけで、すっかり赤外線オタクの今日この頃です。先日はIBMの竹村さんというWorkPad日本語版の開発者の方のセミナーがあったのですが、あれとあれをつないであのアプリを操る、という秘密兵器を教えてくださいました。近日デビューの予定。シリアルポートがいかに大事かを認識。(吉田)

そういうわけで、予告通り6月の研究会は岩見沢での開催となり

ました。宿泊のメープルロッジはとて素晴らしい施設ですので、日帰りしないでみんなで泊まろうね。それからこれはまだ非公式ですが、来年の「バーチャル雪まつり」はこれまで以上に大きな枠組みで新しくおもしろいことができそうです。6/11のマルチメディア・バトルも忘れないでね。エス・オー・ジー・オーそごうへ行く。(青柳)

来月の研究会はなんと古巣岩見沢で開催です。研究会もさることながら懇親会が楽しみです。「みふね」もいよいよ「地ビール」も捨てがたい... そんなこといってないでしっかり勉強してきまーす(荒島)

いやあ、なんだかとっても忙しい。一ヶ月前が数年前のような気がしています。今度は運動会だ。いやはや疲れますわ。まあそれはいいとして、札幌市の小学校の環境が着実に動き始めています。いろいろな会議にも出席者が多くて、熱気を感じます。6月は、その動きがますますパワーアップしてくるはず。さらに忙しくなって、私はもう・・・。(高橋)

4月から入った新入学生への情報リテラシー教育は順調に進み、いよいよシスコ・ネットワーキング・アカデミーの課程へ進んで行きます。課題がなかなか終わらず、遅くまで素直に残って学習している学生達の姿に、不況は学生を育てるのかなと妙に感心している自分です。(由水)

4月の開講からもう1ヶ月半が過ぎようとしています。卒業学年は就職活動真っ盛りで、教師・学生共に、とーっても忙しい日々を送っています。来年の春を迎える頃には、お互いに良い思い出になってると良いよねえ、と笑いながら話したりしますが、予想以上の就職難で学生達は不安でいっぱいみたいです。この不況を笑顔で乗り切って、明るい21世紀を迎えられるよう頑張りたいですねえ!(みさわ)

マルチメディアバトル初出場の4人の学生たちは、日夜あーでもないこーでもないでディレクターやあやしげな作曲ソフトを使って頑張っています。6月11日が近づくにつれ彼らの緊張感も高まってきているようです・・・。まっ、終わったらカラオケでもつれてったるか。(野口)

アメリカは広がった。スケールが違うのだ。時間の速さ、空間の広さ。視点の高さ。どこまでも高く、速く、強く、明るく。でも、弱く、小さなものたちの姿が見えてこないぞ。待ってくれ。深さや奥行きはどうなっているのか?背後の世界に埋もれた木目の細かい軟らかさ、しなやかさ。目で追える歩くスピード。老人の呼吸。子どもの笑顔。母のやさしさ。ジェット機では見えないものがある。落としてきちゃった大切なものがある。環境は時間の問題で整うだろう。今一度、立ち止まってみたいのだ。今。仕切り直しの良い時期だ。(武田)

教育とコンピュータ利用研究会 北海道支部

1999年5月25日発行

事務局: 〒060-8711 北海道札幌市中央区大通西3-6

北海道新聞社 情報開発本部内(担当: 青柳・吉田)

TEL 011-210-5801 FAX 011-210-5532